

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

22

ワークハウスとは



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやしマンガ同人誌

つれづれ草

マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄
(著者少年ジャンプ連載「男のつれづれ草」の作者の父)

日時：10月20日（金）～10月29日（日）
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）

会場：森下文化センター1F展示ロビー

お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





22、ワークハウスとは

スタート時点のワークハウス

ワークハウスは、私がマンガを描いてきた経験と感性をよりどころに、子ども向けの本を企画編集する会社です。

私が企画編集デザインを、相棒のKooくんが取材編集ライターの仕事をする。二人のコンビでひとつの仕事をするのが、この会社の基本スタイルでした。

二人以外に、パートで経理の業務を引き受けてくれた、Nissaiさんは、ふしぎな仲間たちの時、

マンガ家として参加してくれた方です。デザインのアシスタントをしてくれたAkaさんは、銀英社から引き続きのスタッフでした。

この四人からワークハウスはスタートしました。もちろん単行本を企画編集するには、たくさんの方の協力が必要でした。練馬高校の漫研の後輩、ふしぎな仲間たちで知りあったマンガ家、デザイナーやその友達、さらにその友達などなど、ワークハウスという仕事の場に集まり、みな一緒に仕事をしてくれました。

私はワークハウスに集まってくれるメンバーはみんな仲間、同志だと思っていました。

借金はしない

ふしぎな仲間たちが印刷代が払えなくなると、その借金で潰れた経験から、「ワークハウスは絶対に借金をしない」と決めていました。

マンガ家さん、ライターさん、デザイナーさんなどたくさんの方に協力していただきましたが、そのギャラ（原稿料）はその本が出版された後に版元から編集費が振り込まれてから、入金された金額をみんなで分けあつのを原則としました。

実際に仕事をしてからギャラが支払われるまで、かなり遅くなってしまうのですが、皆に支払いの原則を説明して、協力をお願いしました。

もともと版元から支払われる編集費が安かった

ため、たくさんの方の協力者に払えるギャラはとても安かったのですが、たくさんの方が献身的に仕事をしてくれました。

入金されたお金を参加した人にその仕事量に合わせて分け合つのですから、赤字になる事はなく、借金をすることも無いという仕組みでした。

その後、仕事が増え、協力者も増え、入金される編集費が増えれば増えるほど、外注の方への支払い日になぜか現金が足りなくなり、苦勞する様になっていくのでした。

運転資金という言葉も意味も知らない、経営者としては赤ん坊同然の、無知な社長だったので。

社会保険のいよ

てしまいました。

将来の年金生活について、それほど深く考えていた分けでは無いのですが、ワークハウスを法人化した理由のひとつに、社会保険（健康保険と厚生年金）への加入がありました。

その後、2期目の決算の後位だったと思います。社会保険労務士という方が尋ねて来て、その方の指導で社会保険に加入できたことを記憶しています。

会社を有限会社として登記すれば、国民健康保険や国民年金ではなく、社会保険（健康保険・厚生年金）に加入できる様になる。それが家族を守ることにつながると思っていました。

大分後のことになりましたが、出版業界の保険組合「出版健保」に入りたかったのですが「空きが出来ないと加入できない」と認められず、小型コンピュータ組合健保に加入しました。

会社設立して半年ほどした時に、社会保険事務所へワークハウスを社会保険（健康保険と厚生年金）へ登録して欲しいと申請に行きました。社会保険事務所の所員は、設立したばかりで実績のない会社は登録を認められないと門前払いで断られ

いろいろ経緯はありましたが、現在厚生年金を受け取ることができているのは、この時何も分からないまま頑張つて、有限会社ワークハウスで社会保険に加入したこの結果で、私の人生唯一の成功したことだと思っています。